

マイノリティデザインの提案

Minority Design

前川 夏乃

指導教員 西野 隆司

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 価値創造研究室

キーワード：マイノリティ, SDGs, ワークショップ

1. 研究の動機と目的

本研究の目的は、一人一人が尊重されるよう、多様な生き方を認め合って、誰もが自分らしく生きることができる社会の実現に向けて、マイノリティへの理解を深めて国の不平等をなくそう」の現状を分析して差別や偏見をなくすことである。

2. 研究意義

マイノリティによって不便に感じたり暮らしにくく感じる場面をなくすこと。また、現代社会を変革することによる SDGs 課題解決。

3. 調査内容

当初は左利きに特化した研究テーマで進めていた。10代から50代の男女90人にアンケートを実施したところ、右利きが約85%、左利きが約10%、両利きが約5%だった。また、左利きで不便に思った瞬間について聞いたところ、文字を書きづらい、道具を使いづらい、食事の際に隣の人の肘にぶつかる、などの回答を得て、「使いやすさ」を考えたデザインは左利きにとって不便になってしまう場合が多いことが分かった。

しかし、調査を進めていくと、利き手以外のマイノリティ問題や多様性の理解の浅さが浮き彫りになり、マイノリティとマジョリティの共生のための工夫が必要だと思い研究テーマを変更した。

マイノリティとは「社会的少数者」と言い換えることができ、マイノリティという言葉が示しているのは社会的に重要ではない、大したことがない、と判断されがちな少数派である。具体例は健常者と障害を持つ方、左利きと右利き、大和民族とアイヌ民族、同性愛者と異性愛者など。マイノリティが抱える問題として、

様々な制度で対象とされないことや、差別・抑圧・人権侵害の被害がある。以上の調査の結果、マイノリティ体験ワークショップを提案する。

4. アイデア展開

マイノリティ体験型ワークショップを開くことで、互いの理解を深め正しい知識を身につけることができる。さらに、SDGsの課題解決にも繋がる。今回はワンハンドに特化したアイデア展開をした。それにより、片腕で困ることやその理由、援助の仕方についての理解を深められる。一方で障害に関する認識をゆがめるといった危険性もあるので、マイノリティ体験を行うにあたって十分に考慮し、どのようなところで誤った体験がもたれるのかを把握し、参加者が誤った認識を形成することを防ぐかも検討しなければならない。



図 1:片麻痺の更衣着脱 (着衣)



図 1:片麻痺の更衣着脱（脱衣）

<https://www.kounofuku.net/?mode=f12>、2023年10月3日

・澤田智弘：マイノリティデザイナー—弱さを生かせる社会をつくろう、ライツ社、2021

5. 今後の展開

マイノリティ体験型ワークショップで使用するゲームを制作予定。

6. 参考文献

- ・多様な性のあり方：<https://www.town.saitama-lg.jp/0000004670.html>、2023年10月3日
- ・右利きには分からない？左利きの不便あるある聞いてみた：2021/08/09、<https://news.mynavi.jp/article/20210809-1938826/2>、2023年10月3日
- ・マイノリティは理解よりも共生を求めている：2017/09/06、<https://toyokeizai.net/articles/-/187344?page=4>、2023年10月3日
- ・マイノリティとマジョリティの意味とその違い 身近な5つの事例を知る：<https://elemenist.com/article/1830>、2023年10月3日
- ・マイノリティとは？マジョリティとの違いや具体例も紹介：<https://spaceshipearth.jp/minority/>、2023年10月3日
- ・肢体の不自由について：<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/040400/d00204432.html>、2023年10月3日
- ・身体障害者用衣類の現状と障害別の問題点 機能性・快適さにも配慮を：